



安全・安心をお届けいたします

きらきら Eye ランド

JA 庄内みどり

グリーンプロジェクト情報 第6号

発行：庄内みどり農業協同組合

協力：酒田農業技術普及課

初期生育確保が増収へのカギ！！ 適切な水管理と適期中干しを！

今年は、移植後の気象変動が大きく、連休中植えられた苗に植え傷みや、その後の高温により圃場によっては田ワキや表層剥離が発生しておりますが、現在は概ね順調に生育しています。今後は、6月20日頃の有効茎決定期までしっかり茎数を確保するよう、注意深く圃場の状態を観察し、こまめな水管理に努めましょう。

◎現在の生育状況（5月31日現在の作柄診断圃データ）（ ）内は平年対比
つくばSD2号については、JA 作況圃データ（ ）内は指標対比

品 種	草 丈	茎 数	葉 数	葉 色
は え ぬ き	24.1 cm (107)	149 本/m ² (106)	4.9 葉 (-0.2)	30.6 (-3.7)
ひとめぼれ	26.3 cm (108)	140 本/m ² (105)	4.9 葉 (+0.1)	28.8 (-2.2)
つ や 姫	28.3 cm (116)	120 本/m ² (101)	4.5 葉 (-0.2)	32.0 (-0.6)
つくばSD2号	24.1 cm (81)	141 本/m ² (128)	4.8 葉 (-0.4)	31.7 (-)

※移植日：はえぬき5/7、ひとめぼれ5/8、つや姫5/11、つくばSD2号5/12

現時点での土壌アンモニア態窒素の残存量は、“並”と推察されます。
安易な追肥は控えましょう。

◎土壌アンモニア態窒素残存量調査結果（5月31日現在作柄診断圃データ）
単位：mg/100g 乾土

品 種	平成30年	平年値	平年差
は え ぬ き	7.3	7.3	±0.0
ひとめぼれ	5.4	5.9	-0.5
つ や 姫	6.5	5.1	+1.4

技、其の一 中水管理で有効茎数の早期確保を！

- ①温暖な日は、分けつの発生を促すために、日中は止水で中水管理（3～4 cm程度）を励行し、水の補給・交換は夕方又は早朝に行ない、日較差をつけましょう。
- ②低温時や強風が続く場合は、深水にして稲体を保護しましょう。

8葉期（6月20日頃）までには有効茎数を確保できるよう努めましょう。

技、其の二 田ワキ・表層剥離が見られる圃場では早めの対策を！！

今年は移植後の気象変動が大きく、その後の高温により土壌の還元が進み、田ワキと表層剥離の発生が多く見られます。土壌が還元状態になると、有害ガス（硫化水素）の発生により根の活力と葉色が低下し、初期生育に大きく影響します。

☆主な対策

- ・温暖な日を選び、軽く田干し・水交換を行い、酸素を十分に与え根の回復を図りましょう。特に「ワキ」がひどい圃場では、田干し後の入水時にV S こがね液（5ℓ/10a）の使用も効果的です。
- ・表層剥離、アオミドロが多い圃場では、モゲトン粒剤（2kg/10a）の使用を検討しましょう。但し、特別栽培米には使用できません。

技、其の三 適期中干し（6月20日頃）の徹底を！！

目標茎数の8割（坪当り株数70株で、1株当り20本）を確保したら、登熟に繋がる重要素根の伸長を促すため、直ちに中干しに入りましょう。

技、其の四 こまめな圃場観察で病害虫防除！

1. 葉いもち

オリゼメート粒剤の散布を予定している場合は、6月20日まで散布しましょう。散布が遅れると効果が劣りますので注意しましょう。また、圃場に放置されている補植苗は、葉いもちの発生源になりますので直ちに処分しましょう。

2. イネミズゾウムシ

50株当り25頭以上の発生では減収が懸念されます。直播圃場では、初期害虫に対応する薬剤を使用していないため、被害の拡大が心配されます。食害が確認されたら、トボシ粒剤(2kg/10a)・なげこみトボシ4～6個(200～300ml/10a)で対応して下さい。※但し特別栽培米には使用できません。

3. カメムシ

県の病害虫防除所によると、今年の発生は“やや多い”と予想されています。カメムシ類の発生源は、農道・畦畔及び休耕田の雑草です。圃場周辺の雑草地を含めた草刈や耕起を徹底し、地域ぐるみで発生密度の低減を図りましょう。

技、其の五 といごぼした水田雑草の除草

○ノビエが残存した場合

クリンチャー1^キ粒剤：ノビエ4葉期まで1.0kg/10a、5葉期まで1.5kg/10a（湛水状態（水深3～5cm程度）で均一に散布し、散布後3～4日は湛水状態を保つ）
※葉数の進んだノビエを処理する場合はクリンチャーEW（乳濁性液体）を使用して下さい。

○広葉雑草が残存した場合

バサグラン粒剤：3～4kg/10a
（晴天が2日以上続くときを選び、落水状態で散布し3日間は入水しない）

※特別栽培米には使用できる薬剤が限られておりますので、使用する場合は最寄りの営農指導員に相談して下さい。

【 水稻直播栽培の管理について 】

直播の栽培方式により管理が異なります。下記に留意し、早めの茎数確保に努めましょう。また、病虫害の発生状況も観察するようにしましょう。(枝、其の四参照)

◎乾田直播（V溝）

- ・本年の播種作業は概ね4月中に終了し、出芽・苗立ち状況は良好のようです。
- ・葉数が2葉に達したら入水し、湛水状態が安定したことを確認してから直播登録のある一発除草剤を散布しましょう。

◎湛水直播

苗立ち数は播種日や圃場条件によってバラツキがあるようです。苗立ち数を確認し以下の対応を実施しましょう。

苗立ち数は80～120本/m²が目安となります。80本/m²以下の場合は3～4葉期に窒素成分で1kg/10aを追肥し、浅水管理で茎数の増加を図りましょう。また、5葉期に270本/m²に達していない場合は再度追肥を行ないましょう。


- ・直播栽培でノビエの取りこぼしがある場合は、以下の除草剤で対応
クリンチャー1^キ粒剤：ノビエ3葉期まで 1.0kg/10a、4葉期まで 1.5kg/10a
クリンチャーバスME液剤：ノビエ5葉期まで 1000ml（散布液量70～100ℓ）/10a

【 大豆栽培情報 】

◎タマナヤガの被害に注意！


病虫害防除所によると、今年はタマナヤガ（ネキリムシの成虫）の飛来は、多いと予想されています。クルーザー剤を使用していない圃場や例年多発生するところでは、薬剤防除を行ないましょう。

- 出芽後の圃場の見回りを徹底し、被害が見られる場合は「ネキリエースK」で防除しましょう。（使用量：3kg/10a 使用時期：大豆本葉2葉期まで）



しっかり育てよう！庄内みどりのつや姫・雪若丸

つや姫・雪若丸 情報コーナー



○ **6月の管理が最重要！** 水管理の徹底でしっかり茎数確保！
2～3cmの浅水管理で分けつ発生を促進しましょう。ワキが見られる場合は程度に合わせて水交換や夜間落水・田干しを行い根の傷みを最小限に抑えましょう。

☆目指す目標茎数は、つや姫は440本/m²、70株植えて1株20～21本です。
雪若丸は580本/m²、70株植えて1株27～28本です。

☆6月19日(火)、「雪若丸」「つや姫」現地検討会を開催します。「雪若丸」は10:00より酒田市前川で、「つや姫」は11:00より酒田市漆曾根で開催します。皆で生育を確認しましょう！

「つや姫・雪若丸収量アップ対策」

天候不順（低温・日照不足・強風）に負けない、「つや姫」・「雪若丸」の収量アップ対策として、ケイ酸資材を積極的に投入しましょう。

○けい酸加里プレミア 34 20kg/10a 出穂 35日前

○OKSK28（流し込み液体ケイ酸資材） 1.4kg/10a 出穂 30～35日前

園芸情報

★長ネギ：定植後の管理とポイント★

□削り込み

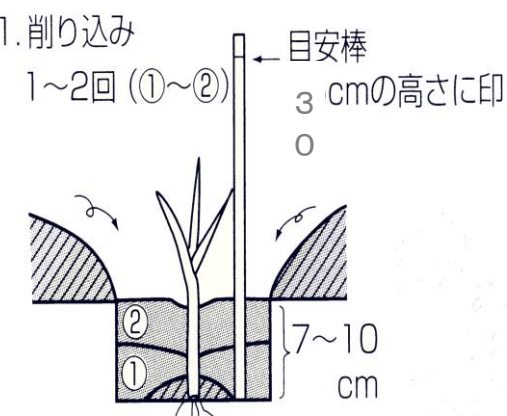
時期：葉鞘の太さが約5～6mmになった頃（おおよそ定植1ヶ月後）
さらにその15～20日後に2回を行います。

目標 → 2回目で地面が平らになるように。
中耕・除草を兼ねて、1回あたり約3～5cm程度の土を寄せます。

注意点

- 土寄せが早すぎると、曲がりや根元が細くなり、くさび形になる。
- 土寄せの高さは、葉の分岐部が隠れない程度まで（5～6cm下まで）。

☆ 定植時に、軟白長を揃えるための目安棒を数箇所を立てておくと便利です（図）



□軟腐病対策

- 病原菌は細菌です。土壌及び水によって媒介され伝染します。
- かん水や降雨などによって土とともに跳ね上がり、周辺に飛散し伝播したり水とともに土壌中を移動し蔓延します。
- 発病適温は30～35℃で高温期に土壌湿度が高いと発生が多くなります。
- ねぎの根部や葉鞘軟白部の傷口から侵入し、増殖します。

（管理ポイント）

軟腐病の活動抑制 → 「排水対策(明渠)の徹底」⇒大雨対策、停滞水対策
「高温となる日中は灌水や土寄せ等の管理を行わない。」
⇒細菌の活動好条件を抑える。高温期の土寄せは涼しい時間に。
登録薬剤の有効利用と使用時期の確認を（詳しくは園芸センターに問合せ下さい）

排水徹底の再確認をお願いします。

これから梅雨に入ると、前線の停滞による長雨や集中豪雨などで冠水する恐れが出てきます。水が停滞すると、軟腐病が蔓延するだけでなく、ねぎの生育が弱り他の病気に掛かりやすくなります。降雨の中での作業は困難になりますので、今のうちに明渠等の排水溝の確認をお願いします。

注意！

畦畔及び転作田の除草剤（茎葉処理液剤）散布する際は周辺作物に十分注意し、風のない日と時間帯を選び、ドリフト低減ノズルと飛散防止カバーを必ず使用しましょう。

特別栽培米圃場の農道・畦畔では、除草剤（茎葉処理液剤）の使用はできません！

★次号の発行は6月20日です！